

東京・丸の内に新たなアートスポットが誕生！  
2022年10月、静嘉堂文庫美術館が移転  
重要文化財 明治生命館1階にオープン

公益財団法人静嘉堂は、2022年10月、静嘉堂文庫美術館(東京都世田谷区、河野元昭館長)の展示ギャラリーを丸の内の重要文化財、明治生命館(東京都千代田区)1階に移転・オープンいたします。東京・丸の内に新たなアートスポットが誕生します。



広報画像1: 静嘉堂文庫美術館 展示ギャラリー(ホワイエ)完成予想図  
資料提供: 竹中工務店

明治期半ば、静嘉堂創設者である岩崎彌之助(三菱第二代社長)は、丸の内に建設を開始した近代的オフィス街の中に美術館を開設したいという構想を持っていたといわれています。

静嘉堂創設130周年・美術館開館30周年を迎える節目の年、静嘉堂は、所蔵作品をより多くの方々にお楽しみいただくことを目指して新たなスタートを切ります。

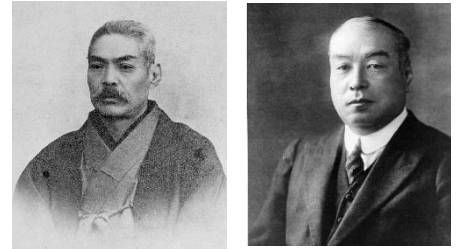
ガラス天井の広場(ホワイエ)をぐるりと囲む4つの展示室では、テーマごとに作品の見どころをご紹介します。展示室面積は、世田谷の約1.5倍になります。展示ケースと照明設備を一新し、装い新たな展示室で静嘉堂のコレクションが皆様をお迎えます。

《曙変天目(稲葉天目)》をはじめとする国宝7件、重要文化財84件を含む、およそ20万冊の古典籍(漢籍12万冊・和書8万冊)と約6,500件の東洋古美術品の中から名品を選びすぐり、テーマ展の開催を予定しています。なお、本事業は、三菱創業150周年(2020年)の記念事業の一環として行うものです。

## 1. 静嘉堂について

静嘉堂は1892年(明治25)、岩崎彌之助(1851~1908 岩崎彌太郎の弟、三菱第二代社長)によって創設され、息子の岩崎小彌太(1879~1945 三菱第四代社長)によって拡充されました。

父子二代によるコレクションは、私立美術館の中でも屈指の質と量を誇ります。1977年より世田谷区岡本で所蔵する美術品の一般公開を開始し、創設100周年となる1992年に同地に美術館を開館しました。このたびの展示ギャラリー移転後も、美術品の保管管理・研究閲覧業務、並びに静嘉堂文庫(図書館)、敷地・庭園の管理業務は、世田谷区岡本にて継続して行っています。



写真上 左: 岩崎彌之助 右: 岩崎小彌太  
写真下 世田谷区岡本の静嘉堂文庫。  
閑静な庭園も親しまれている。

## 2. 明治生命館について

かつてこの地にあった「三菱二号館」(1895年・明治28竣工)を新たに建て替えた「明治生命館」(広報画像2)は、1934年(昭和9)に竣工。古典主義様式の傑作として高く評価され、1997年(平成9)に昭和期の建造物としては初めて、国の重要文化財に指定されました。

意匠設計は東京美術学校(現 東京藝術大学)教授で、同じく重要文化財となった大阪市中央公会堂やニコライ堂修復なども手がけた岡田信一郎(1883~1932)と、弟の岡田捷五郎(1894~1976)です。明治生命館の竣工年は、奇しくも小彌太が静嘉堂を代表する所蔵品、《曜変天目(稲葉天目)》(広報画像3)を購入した年に当たります。



左: 広報画像2  
重要文化財・明治生命館  
1934年(昭和9)竣工  
右: 広報画像3  
国宝《曜変天目(稲葉天目)》  
建窯 南宋時代(12~13世紀)

この度の移転工事・設計を担当するのは、明治生命館の新築工事を請負い、その後2005年にも大規模な改修工事を手がけた竹中工務店です。重要文化財である建築の文化的価値を守り、その新たな活用として、1階北側のラウンジ部分が静嘉堂文庫美術館として生まれ変わります。

2022年10月から、皇居お濠端の日本を代表する近代洋風建築の中で、当館の東洋古美術コレクションをご覧いただけるようになります。1ブロック隣の三菱一号館美術館では、西洋近代美術を中心とした展覧会を開催している他、丸の内には数多くの美術館が集積しています。いつ来ても、ジャンルを問わない多彩な美術を楽しめるスポットで、静嘉堂の名品をぜひお楽しみください。

**静嘉堂文庫美術館 施設概要** (開館予定日 2022年10月1日)

- 所在地:東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館1階
- 電話:050-5541-8600 (ハローダイヤル)

☆開館にあわせて、ミュージアムショップもオープンいたします。開館記念展図録やオリジナルグッズを販売いたします。

### 3. 開館記念展覧会について

**静嘉堂創設130周年・新美術館開館記念 響きあう名宝一曜変・琳派のかがやき(仮)**

会期(予定)：2022年10月1日(土)～12月18日(日)(前後期 展示替えあり)

国宝《曜変天目(稲葉天目)》はもちろん、所蔵する7件の国宝全てが丸の内に集結。茶道具、琳派、刀剣、中国書画と工芸などの各ジャンルから、静嘉堂を代表する名宝が並びます。



上段左:広報画像4 《大名物 唐物茄子茶入 付藻茄子》南宋～元時代(13～14世紀)

上段中:広報画像5 《粉彩菊蝶図盤》景德鎮窯 清時代・雍正年間(1723～35)

上段右:広報画像6 国宝 手搔包永《太刀 銘 包永》鎌倉時代(13世紀)

下 段:広報画像7 国宝 俵屋宗達筆《源氏物語関屋濡標図屏風》江戸時代・寛永8年(1631)

以降、23年1月からは、卯年を彩る新春にふさわしい作品や例年、多くの方に親しまれているお雛様の展示を行います。ご期待ください(展示内容は決まりましたら、あらためてご案内させていただきます)。

#### 【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局(共同PR内 担当:三井)

※在宅勤務も増えているため、メールでいただくと助かります。

E-mail.seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382 / FAX. 0120-653-545 /

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10F

◆静嘉堂文庫美術館 TEL. 03-3700-0007(広報担当:大森)